

広域的地域活性化基盤整備計画の事後評価

①都道府県名	福岡県
②計画の名称	大牟田地域
③計画期間	平成21年度～平成25年度
④交付期間	平成21年度～平成25年度
⑤事業実施期間	平成21年度～平成25年度

⑥目標

有明海沿岸道路の完成に伴う、流入人口の増加と近代化産業遺産群を活用した広域観光を展開し、諏訪川や諏訪公園等の背後地を一体的に整備することにより、人的交流の増加による地域の活性化を図る。

⑦目標設定の根拠

【経緯及び現況】

■大牟田地区は福岡県南部に位置し、福岡市と熊本市の中間に位置する。本市は、明治以降、三池炭鉱と石炭関連化学コンビナートの興隆とともに発展し、我が国の産業や経済の発展に大きく貢献してきた。しかし、平成9年3月の三池炭鉱閉山以降、市内の炭鉱関連施設は次々と解体され、次第に炭鉱のまちであった記憶さえ忘れ去られつつある。

■一方、産業遺物や工場遺構、さらには現在も活躍している産業機器なども含めた産業文化財を観光資源とし、それらを介して物づくりの心に触れる産業観光に注目が集まっている。これだけ石炭関連施設が集積され、今なお残っているのは全国においても本市だけであり、大牟田らしさを表現する重要な要素になっている。こうした歴史的背景やこれらの近代化産業遺産群、さらに平成20年に部分開通した有明海沿岸道路の広域ネットワークを活かした観光の振興に取り組んでいく。

【課題】

■近代化産業遺産群を活用した観光入込客数増加を図るためにも、拠点となる諏訪公園と近代化産業遺産群とのアクセス向上やこれら遺産群との統一感のある景観整備が必要である。

■近代化産業遺産群を活用した広域観光を展開し、地域の活性化を図るためには、拠点施設へのアクセス道路整備による支援が必要である。

【将来ビジョン（中長期）】

■三池港地区は、「大牟田市都市計画マスタープラン」において、「恵まれた交通アクセス・港湾機能と自然・歴史資源を活かした人と物が交流する拠点」として位置づけられている。また、三池港にぎわい交流拠点づくり推進協議会が設置され、「みなと100年ルネッサンス構想」をもとに、にぎわい創出に向けた継続的取り組みが行われている。

■有明海沿岸道路完成による流入人口の増加と諏訪川の景観整備やアクセス機能を向上させることで、諏訪公園や近代化遺産群への観光入込客数や交流人口の増加を促進し、地域の活性化を図る。

⑧事後評価

指標	単位	定義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度	実績値	評価年度
諏訪公園	人/年	年間利用者数	スポーツ、レジャー、観光及び地域交流人口の増加	375,000	H20	500,000	H25	375,266	H25
石炭産業科学館	人/年	年間利用者数	観光及び地域交流人口の増加	13,200	H19	20,000	H25	17,549	H25

⑨評価方法

各施設の統計資料を基に実施

⑩結果の公表方法

福岡県のホームページに掲載する。

広域的地域活性化計画の事後評価報告シート

都道府県名： 福岡県

計画の名称： 広域的地域活性化基盤整備計画（大牟田地域）

1) 事業の実施状況

計画の整備方針	事業区分	事業名	事業実施状況	事業未実施の理由
感潮区間にある諏訪川護岸の景観整備による河川環境の改善により、近接する諏訪公園および近代化産業遺産群の観光入込客数の増大や地域の人的交流の増かから地域の活性化を図る。	基幹事業	諏訪川河川整備	△	
アクセス道路を整備することで、近代化産業遺産群を活かした広域観光を展開し、大牟田地域の活性化を図る。	基幹事業	勝立三川線道路整備	○	

○：計画期間中に完成 △：計画期間終了後に完成見込み —：事業を中止

2) 目標の達成状況

計画目標	事業効果の確認方法	指標名	従前値	目標値	評価値
有明海沿岸道路の完成に伴う、流入人口の増加と近代化産業遺産群を活用した広域観光を展開し、諏訪川や諏訪公園等の背後地を一体的に整備することにより人的交流の増加による地域の活性化を図る。	計画で定めた目標指標	諏訪公園	375,000人/年(H20)	500,000人/年(H25)	375,266人/年(H25)
		石炭産業科学館	13,200人/年(H19)	20,000人/年(H25)	17,549人/年(H25)
	目標指標以外の成果指標		—	—	—
		—	—	—	—
その他の定性的な成果			—		

広域的地域活性化計画の事後評価報告シート（２）

3) 目標達成・未達成への事業の効果の影響分析

事業効果の確認方法	計画で定めた目標指標		目標指標以外の成果指標	その他定性的な成果
	①諏訪公園	②石炭産業科学館		
事業効果の発現状況	・道路整備の完了に伴い、アクセス性が向上した。 ・河川整備が計画期間中の事業完了とはならなかったため、河川沿いを動線とした回遊性が確保できなかった。	・道路整備の完了に伴い、アクセス性が向上した。 ・河川整備が計画期間中の事業完了とはならなかったため、河川沿いを動線とした回遊性が確保できなかった。		
外部要因の影響	・なし	・なし		
目標達成・未達成の要因 (問題点の把握)	・道路整備は完了し、広域的なアクセス性は向上したが、河川整備が計画期間中の事業完了とはならなかったため、H25年度調査時点での目標達成にはいたらなかった。	・道路整備は完了し、広域的なアクセス性は向上したが、河川整備が計画期間中の事業完了とはならなかったため、H25年度調査時点での目標達成にはいたらなかった。		
目標の達成・未達成区分	C	C		
全体計画の総合評価	・道路整備は完了し、広域的なアクセス性は向上したが、河川整備が計画期間中に事業完了しなかったため、目標は達成されなかった。			

S：計画推進による効果が確認され、評価値も目標値を上回った
A：計画推進による効果が確認されたが、評価値が目標値には達していない
B：計画推進による効果が確認できなかったが、評価値が目標値を上回った
C：計画推進による効果が確認できず、評価値も目標値には達していない

4) 事後評価の手続き

実施体制・実施時期	計画全体についての評価を実施主体でまとめる。
結果の公表方法	福岡県のホームページにて公表を行う。

広域的地域活性化計画の事後評価報告シート（3）**5) 今後の活性化方策の検討****①未達成目標の改善方策**

計画で定めた目標指標	目標の達成状況	改善方策
①諏訪公園	C	河川整備を引き続き実施し、河川沿いを動線とした回遊性の確保を目指す。
②石炭産業科学館	C	河川整備を引き続き実施し、河川沿いを動線とした回遊性の確保を目指す。

②今後の広域的地域活性化方策

なし

6) フォローアップ

計画目標	フォローアップが必要な目標指標	フォローアップ時期	フォローアップの公表方法
なし			

参考資料：事後評価におけるチェック項目

I. 事後評価の内容

①事業の実施状況	チェック欄
事業（基幹、提案、関連）の実施状況が明らかにされている。	■
拠点施設及び重点地区における拠点施設整備事業については、基幹事業の一体性が確認されている。	□
当初見込んだ事業効果の発現状況が明らかにされている。	■
拠点施設の整備を伴う計画の場合（法第2条第3項第1号）、当該事業が実施された。	□
他の事業との連携等による、相乗効果・波及効果について記載されている。	■
②目標の達成状況の整理	
広域的特定活動の状況を踏まえた目標の達成状況が記載されている。	■
指標・数値目標により、目標の達成状況が表現されている。	■
計画で定めた目標指標以外の成果指標について、指標・数値目標がわかりやすいものとなっている。	□
評価のわかりやすさや中立性を損なわない範囲で、指標・数値目標以外の方法によっても、目標の達成状況に関する評価がなされている。	□
事後評価の時点で目標指標の計測が困難な場合、フォローアップの実施時期が明確にされている。	□
目標の達成状況に影響を与える主な外的要因が把握・整理されている。	■
③目標の達成・未達成要因の分析、評価	
拠点施設が広域的特定活動の拠点としての機能を果たしている。	■
事業内容と指標・数値目標との整合性が確保されている。	■
地域資源の活用やハード・ソフトの連携等が図られている。	■
拠点施設での広域的特定活動が計画どおり実施されている。	■
民間事業者等の多様な主体との連携が図られた。	□
外的要因の影響を踏まえた評価となっている。	■
④今後の広域活性化方策の検討	
評価内容を踏まえた今後の改善策や更なる取り組みの方針が明確となっている。	□
今後の改善策や更なる取り組みの状況を明らかにするフォローアップの計画が示されている。	□

II. 事後評価の手続き

第三者（学識者等）による評価委員会で検討されるなど、適切な体制で評価が実施されている。	□
交付金等の制度の効果的・効率的な活用を広く国民に明らかにし、また、分かりやすい方法で確認することができるよう、適切に公表がされている。	■